

餘興

ときは、知ると知らざるを問はず、近隣の者皆來會して、饗を受くるを例とせり。宴席上衆皆長老を貴び、必らず牲畜の頭骨を盛りて長老に供す。是れ敬意を表するなり。此の時長老は、手づから其の肉片を取つて、左右の子弟に分つ、子弟は膝行して長老の前に進み、直に口を開ひて之を受く、即ち恩を謝するの禮なりと。

斯の如くにして後、衆客幕の内外に團坐し、牛飲馬食す。食後は必らず餘興の催ありて、其の餘興は概ね競馬、競走、角力等とし、勝者に賞品授與の方法を設け、長老の定めに従うて分與す。其外尙ほ男女青年輩の最も愉快とする一遊戯は、騎馬競走なり。該競走の方法は、處女、馬に騎し、青年之を追ひ、其の及ぶ者は接吻等の戯をなすことを得。然れども處女の騎馬に巧なる、一たび鞭を舉げて馳驅するや、追騎容易に近づく能はず。既にして漸く近づくに及べば、處女忽ち鞭を揮ふて追騎を一拂し、衆客の喝采未だ終らざるに、忽ち又其の獲る所と爲り、四邊絶叫の聲喧々囂々甚だ熱鬧を極む。

## 第十節 曆法と言語文字